

Q1. 話を聞いて就労選択支援事業について感じる事・思う事

・学校の立場で言うと、障害種別に合わせた配慮等が、どの実施主体でもされていくのかと言うのが気になるのと、卒業後、障害種別関係なく地域で生活する生徒にどのような力をつけていけないといけないのか、考えることが、知的障害だけでなく、他の障害を有する生徒に対しても必要であると思いました。

・本人を真ん中に置いて、よりよいものになるようにしていきたいと思えました。そのためにも、役割分担や仕組みづくりをしっかりとしていかななくてはならないとも思いました。

・就労選択支援事業を実施することは、就労アセスメントと同じく、本人の強みや弱みや支援をより深める一つのサービスであることを改めて知ることができた。

・改めてアセスメント本来の意義を再確認できる人が増えるのではないのでしょうか。その延長上に今回の制度が、実のあるものになっていければと思います。

・改めて制度をどう上手く使うのか、どう生徒、保護者に理解してもらえるかを教員としてしっかり勉強しなければならないと感じます。個人的に本人の評価を学校だけが行うのではなく、様々な視点から評価してもらえることは、進路指導上有効だと考えています。

・この制度をしなければいけないのではなく、上手く活用して生徒の進路に繋げていけたらと思いました。

・制度自体が、本来の就労系サービスにつながるために必要であったことの明示化であり、そのために支援者は、より地域に精通したものでないと役目を果たせないと感じた。また、そのような人材を育てて行かなければならないということも認識できた。

・利用者が円滑にサービスを選択できるためには、各圏域ごとにサービス情報を的確に把握する必要があると考え、今後は事業所・圏域・行政との密な連携を図っていくことが重要だと感じました。

・「アセスメントをしてから就労先を選択する」という本来あるべき仕組み・流れを再認識し、地域で構築することが重要だと改めて感じました。

・実際、頻繁に耳にはしていますが、いざ自分が説明できるかという点、まず無理です。本日、この事業に至る背景から知る事でその必要性を感じる事が出来ました。何よりも、当事者自身が自らの力を知れるという点、就労という選択肢がある事を知れる点では早く定着して欲しいと思いました。

・相談支援専門員が就労選択支援をいかに正しく理解して情報提供できるかとても重要だと思います。地域の相談員と共通理解し足並みを揃えられるよう基幹相談支援に伝えていこうと思います。

・実際に運営していく側と、方針を打ち立てる側との理解のすり合わせが大切と感じた。

- ・前向きな捉え方、学校との連携を大切にいただいていることは、各圏域で進んでいない状況を思うと、全ての圏域に出前をお願いしたいと思いました。
- ・前向きにこの制度を捉えて取り組んでいきたいと考えています。
- ・就労選択支援事業のサービス申請がセルフプランでできると本当にありがたい。本校は、本校の実習とかぶせて実施している。実習期間外に実習を組むのは難しい(生徒の学習保証もあり)ため、日程の相談をこれからもさせていただきたい。学校サイドの事情を考慮いただきながら進めて下さり感謝しております。
- ・一般就労を具体化する為の受入側の配慮も必要であるように感じる
- ・実際、就労選択支援事業が始まってからの相談員としての動きがどうなるかという不安があります。
- ・本人に合った就労サービスをどのように決めているのか分かっていなかったため、制度が出来ることで客観的な判断が得られるのであれば良いことだと思いました。
- ・この事業を推進していこうとしたときには、思いのある方が事務局を担ってくださるのが良いと思いました
- ・これからの新しい事業なんですね。
- ・公平な選択ができるかが課題
- ・創設にあたり、この事業所はイマイチという事のないように、支援者の質と支援の内容が統一できれば良いなと思いました。
- ・ご本人の選択肢が広がる可能性があると思いました。将来のこと不安がってる保護者が多いので、(一生作業所かなあなど、)色々な可能性があること、を伝えていきたいと思いました。また改めて、保護者さんは就労事業所のことをまとめて作業所と理解しておられるので、それぞれ機能があることを伝えたいと思いました。分かり易い説明ありがとうございました。
- ・とても良いと思うけど、何となく官僚的な発想から生み出されてるのがありありとかんじられる制度と思った。
- ・まず事業の理念や目的をよく理解し、その上で利用者の生活の質に繋がるようどう活用していくかを考えていくことが重要だと感じました。
- ・選択肢が多くあると言う事を、分かりやすく本人が不利益をこうむらないように伝え、共同して決めていくことの大切さを日々感じています。どう進めれば上手くいくか実践しながら整理していきたいです。
- ・障害分野でも本人の意思決定が強く謳われる情勢の中で、非常に重要な事業であると感じた。
ただ、お話の中にもあったように抜け穴は多々ある印象も受け、悪用されない仕組みづくりも重要なポイントであると感じた。

・本人の思いが形として表現できるような仕組みは歓迎です。

・就労に関する事業ではあるが、働くことと暮らすことの両方がリンクして、その人の生きがいにつながる事業になる様、期待をしたいです。そのためにはどう事業を展開していくのかより、本人のためにどうこの事業を活用できるのかを、本人主体で考えられたら良いと思いました。

・はたからでできる事業であれば、はたからで頑張っていきたいなーと、改めて思いました。

・普段の仕事内容に直結していないので、知らないことが多かったですが、分かりやすく説明いただいたので、知識を増やすことができた。

・理想も高く、ハタクラ意義も語り、信念にとっても共感しました。が、この圏域でできるのか？本来ならば、本人に寄り添う学校、施設、ハローワーク、相談支援…何よりハタクラがしっかり就労選択意思決定支援ができていたら支援費払ってまで受けやなあかんの？悪しき法人が選択支援で自法人の作業所に人回す入り口になりかねんのでは？と不安もあります。また、この圏域の最後の砦の在り方は、今までとこれからは違うのか？とも…最後の 3 枚の資料は本当に大切なことを教えていただいております。

・利用者自身が選択できる事を知ってもらうことの大切さもあるが、支援者が先ず理解すること、それを活用出来るように意識していくことが大事だと思いました。

・難しく、制度なことなど複雑なことが多く理解しにくいと感じています。

・就労系福祉サービスのところに就労移行、A 型、B 型とありますが、介護事業である生活介護も元は作業所であるところがほとんどです。生活介護か B 型か悩んでいる方も利用の対象となるのでしょうか？この事業の開始によって特別支援学校の実習のあり方も検討されるようになることを期待したいです。

・養護学校卒業後の進路として、どんな仕事がしたい？とかどれにしますか？というより、とりあえずここにしようかと決められているように思う。

・自分自身就労アセスがこんなことになってしまった責任は感じているのと、同じ轍を踏まないためにはどうしたら良いか少し考えてみたい。アセスでの自分の 1 番の反省は、始まって 3 年くらいした時、ある事業所への進路で、介護事業所が開いておらず、アセスを使って B へ入れたいという、申し出が、学校事業所そして行政からもあった時それを許可してしまったところで、ひょっとすると、移行事業所の意欲をそぐ形になってしまったのではないかと反省してます。今回も誰の都合なのかは明確なのでそれを守らなければ同じことになってしまう、なんとか頑張ってもらいたいが。本来は選択するのは本人であるが、いつまで経っても、学校の三者懇談会で、まず本人が喋ってる姿、それを尊重して親も含めて真剣に検討している姿が想像できないのは私だけではないはず、おまけに事業所も抜けられると困る利用者を必ず抱えており、本人の意見を公平に聞いているかはやはり疑問ではある。

・中立性の確保が大切だが、そのための枠組み、土台づくりが重要だと感じた。

・県内でどこが就労選択支援事業をしているのか分かる一覧表などがあると今後ありがたいと感じる。

・今までのような主観的なアセスメントではなく、たくさんの視点からのアセスメントとなるのは、利用者にとってより良い支援に繋がると思うが、協同でのアセスメントの為に要する時間であったり事務的な手続きであったりと、設定期間はあれど、その利用者のタイミング等を逃してしまわないか、受け入れる施設側も然り。といった懸念は感じられた。

・今まである程度支援員が方向性を示し、その中から、本人に選択してもらうことが多かったが、どんな選択肢があるのか、本人が自分で選択できることが本来の姿であり、その為の就労選択支援事業が果たす役割は大きく、非常に重要であると思った。

・対象者「意向を有するもの」の部分で、行政には実情にあった判断をしてもらうための働きをしていかないと!ですね各機関の志と、高い専門性の必要性を感じました

・ご本人様の意思決定を積極的に行っていくためにはとても必要な支援だと思う一方、力や余力がある事業所の囲い込みになってしまいそうで不安を感じる。

・就労選択支援事業が出来た背景などを、利用者さんはじめ、色々な立場の方が理解することが大事だと感じました。目的を間違えなければ、必要な支援だと感じました。

・結局仕組みを支える人材をどう確保するんでしょうか?

・今回のお話を聞いて、正しい認識ができました。ご相談に来られる方の状況・状態に合わせて、他の支援機関にお繋ぎすることもございます。基本の考え方、支援方針を心がけながら、引き続き支援を継続していけば良いのだなと感じました。関わりたいですが、中立性等懸念事項が多く難しいと感じました。

・市の支給決定が必要になるので、ちょっとハードルが高い気もしました。

・総合的に相談できる先があるというのは心強いと思った一方、待ちが発生したり事業者による差が大きくなったりすることもあるのかと思いました。だからこそ、色々な事業所の方と顔の見える関係を築いていきたいと思いました。

・障害を持った方が自身に合った就労をできるシステムが整備される事は素晴らしい事だと思います。ただ、就労が難しい状態の方も「仕事をする」ことを暮らしのモチベーションにしてB型を目指される方が多い・B型へ通所することで回復される方もおられるため、何にシフトチェンジしていただくか悩ましい所です。

仕事をする能力が不足している方が就労を考えるのは間違っているとは思いますが、生産人口を増やすと言う国の政策で弱者を切られた感を少し受けました。

・病院と地域をつなぐ接点が増える感覚もあって嬉しく思います。

・本人の能力や適正に応じたサービスを考えられるのは良い。一般就労に向けた支援に乗れる人もいると思う。一方で、病状や能力不足を理由に、本人が希望しても就労継続Bの支援からも外れてしまうのではないかと不安に思う。

・この事業を通じて、本人のニーズに即して、就労支援の入口を整え、出口となる就労の場・地域づくりにつなげていけるよう、事業所や行政、関係機関がともに考え、実践していくことが重要だと改めて感じました。

・本来の就労アセスと大きく違わないはずだが、就労選択になることで、本来あるべき姿にしていける可能性が出てきた、と捉えることができると感じました。しかし、やり方を間違えると抱え込みのためになるのか、とも。現状では、アセスを実施するために計画書を書かされている、計画相談がそんなイメージになっているところもあります。特に、学校の2年生時のアセスでは、計画相談が結果を知りたいと言わなければ知ることも無いのでは。私たちは、振り返りに同席させてくれと学校に申し入れ、評価を一緒にお聞きするようにしています。しかし件数にゆとりがなければ求められる以上のことはしないように思います。何のために実施するのか、そのためにその地域の取り組み方をどうするのか!といった話し合い、地域の仕組みづくりが大切だと感じました。

・障害のある方の多様な働き方のニーズを叶えるにあたり就労選択支援が創設されたことは今の現状を少しでも変化させる大きなきっかけとなればと考える。ただそれを有意義なものにするためには地域の福祉に関わる方たちが制度の意味理解、実践の統一が必要であると考え、そういった意味でも相談支援専門員が正しく就労選択支援を理解し本人、家族、地域の福祉サービス提供者に情報提供できるかも肝要と思われた。

・結局のところ、一部の人しか正しい提供が難しい事業になるのでは感じた。就労アセスでは、人が足りないから A にも B にも裾野を拡げたということなのかなあ。

・1~2 週間で丁寧なアセスメントができるかなあと思った。最初は緊張して何もできない人、最初はがんばるけど 1 か月で息切れする人、等の姿を私たちはたくさん見ていると思う。事業として制度化するのであれば、サービス計画はもちろんだけど、個別支援計画を立てて、「この人は 1 週間」「この人は 1 か月」「この人は半年」など、その人に合わせた期間を設定して、本人と「共同計画」を作成していったらいいのではないかと感じた。

・〇〇市はそもそも計画相談事業所が少なくセルフプランの方がとても多い。セルフプランの方の受け入れにあたり就労選択事業が確立されてくれると大変ありがたい。

・1 つのサービスとして、就労選択支援が行われるようになるには、利用者の方に関わる私たちがしっかり理解することと、利用者の方やその家族の方に「自分に合う仕事を選べるんだ」ということを知ってもらう必要があることを感じました。本人の意見を聞けると言うのは良いと思いました

・就労選択支援事業を必要としている方に説明できる(支援できる)ようになりたいと思った。

・今は高校生くらいの子供さんもみえますし、母が就労の言葉を出す方もおられます。難しいのではと思いつつ、突きつける必要もまだないかと流していることもあります。アセスメントをして、それをしっかり伝えていくこと、制度を知って、相談したり、繋げたりすることも大味(醍醐味?)だなーと思いました。必ずしも計画相談がついているわけではないので。久しぶりに相談員さんの話を聞いてよかったです。

・市区町村での力量による感じがしました

・まだ医療機関がどのような動きになるかわからないが、情報共有しながらすすめていきたいです

・就労支援に関する事業は多岐に亘っていることは、サービスが充実してるとも言えますが、実際のところは「これはウチじゃなくて、〇〇ですね」とたらい回し感があったり、同様のケースでも対応者次第では話が進んだり、個人の裁量次第で不透明で不明確な部分に不便を感じていた為、そこが改善されると有難いなと思います。

・職業評価との住み分けをどのように考えるか。就労継続支援を利用する前に就労選択支援を利用するなら今まで以上に時間がかかり利用者がそれに待てるだろうか

・就労選択や移行で悩んでいる方は年々増えているように感じます。就労選択支援が地域による格差ができるだけ少なくなるようにするのが大切だと感じるとともに、難しさも知りました。

・障害を持つ人が今後より主体的に進路を選べるようになるといいですね。

・開始初めは煩雑になりそう(JEED の評価表を活用するために記録をまとめたり)精神系 B 型なので変化に耐えられず体調を崩す方がいそうなど

・今日この事業の成り立ちを総合支援法開始までに遡り時間をかけて丁寧に説明戴いたおかげで、今導入される理由がとてよく理解出来ました。ここまで掘り下げて説明を受けないと、単なる形式だけのもの、さらにはご本人にとってこれまで以上にサービスを利用するための段階が増えただけのものに成りかねないとも感じました。そうならないよう、制度開始の前に精力的に回られていることに頭が下がります。今日説明をされたこと、その狙いどおりに運営運用されていくことを、選択肢の1つとなる1事業所として、自分達の理念や活動をしっかり見直したいと思います!!

・本人よりご家族の視野が狭まってアセスに臨まれるケースがあったりもしたのでご家族も巻き込んで皆で視野を広く見ていけると良いと感じました。

・当事者が職業人生において、より多くの選択肢を選べる制度となることを期待したい。

・就労選択支援の大枠を国が作っている中で先が見えないことについて各事業所等が負担に感じていると思います。ですが、本人たちに対してなにができるのかの視点で物事を考えていくことが圏域で求められており、圏域で柔軟にやり方を考えていくことが1番大切であると感じました。制度を生かすも生かさないのも圏域次第であるので、このセミナーがよりよい方向につながる貴重なきっかけになればと思っています。

・効果的に利用できれば、入所(社)後のなんか違うが減らすことができると思う。成人の方にこの制度をうまく活用できる方法を考えていかないとダメだと思った。

・直 B アセスメントとは違う意図があると知れました。

・他機関連携ができるある程度経験がある職員でないと難しいサービスだと思います。

・地域サービスの情報を知り、利用者に提供して本人が納得して事業所を選ぶ仕組みはいい流れだと感じました。取り組

み始めに上手く事が進むかは不安ですが、取り入れていきたいです。他職種と連携して生活面のアドバイス等は会議で聞く機会は支援者にとっても勉強になり良い機会だとも思いました。

・本人の希望とアセスメント結果の乖離が多くなりそう。

・支援者や、周りが躍起になっていても、本人が希望しないことには始まらないので、そこをどうアプローチしていくかが、重要になってくるのではないかと感じます。

・当事者にとって適正なサービスの提供ができるようにとの制度だとは思いますが、うまく機能しない不安が大きいです。

・地域の中で活用は、これからだなあと思いました。

・就労系サービスが選択事業を中立に実施することは難しいと感じた。就ぱつや職センが主体となった方が良いのではないかと感じた。

・今まで、やってきた軸が間違っていないと確認できたが、実践する事は色々と大変な事は尽きないと思いました。

・関わるとしても、いろいろ課題はあるのだと思うが、始めてみてどうなるか楽しみでもあります。

・地域の連携をどうしていこうか、考えています。まずは資源を知ることからだと思いますので、見学から始めたいです。

Q2. その他の意見

- ・今後とも、幅広く生徒の進路選択に向けた貴重な機会を提供いただけるとありがたいです。
- ・一緒にやっていきたい、役に立ちたいという講師のことはとてもありがたいです
- ・固定化問題については事業所の意識ですので、A 型への進路も対象になるのはどうかと思っています。B 型は納得できますが。ただ、学校の進路指導の問題でないという厚労省の見解があるのであれば、うれしいことです。
- ・就労選択の名前が出始めた頃は、まだぼんやりとしか分からなかったのですが、今回の講演でかなりクリアになってきました。
- ・制度の開始にあたり、どこがイニシアティブを取るというような事で進まないようなことにならないかなと思います。それぞれで声を掛け合えることから始められたらと思います。
- ・関係者の方々と話をしていく中で、生徒にとって良い取り組み方を探っていけたらと思いますが、先が見えない不安は多々あります。が、何とかやっていくしかないです、、、ね。
- ・ざっくばらんに、でもしっかりと課題についてもお話ししていただきありがとうございました。
- ・県の方から制度の部分と実際の流れなどをセットで聞いたことが良かったです。
- ・制度の周知にご尽力いただき、本当にありがとうございます。
- ・国との調査や事業提案等も進めていただきながら、各圏域の情勢も踏まえた内容をご教示いただき、大変参考になりました。利用者さんの適正なアセスメントのためにも、就労選択支援の輪が適切に広まるように行政としても努力していきたいと思います。
- ・就労系の各事業所が自分の事業の目的を把握できていないという点については、今後の大きな課題だと感じました。本事業を説明する際にも、その問題意識は話していこうと思います。
- ・そもそもの福祉についてまだまだ分かっていないので、質問したくても何を質問すれば良いのか分からない状態になっていました。今回は時間の加減で省略されていたと思うので、フルで聴きたいです。
- ・就労選択支援事業の研修についてはセンターの中でもこれから定期的に行っていただきたいです。自分自身の理解のためにも。
- ・講義がわかりやすかったので、後のグループワークがやりやすかったです。

・いつでも質問できるのはいいなと思って臨みましたが、一生懸命聞いていると、途中で質問を打ち込むのはとても難しいということがわかりました。質問タイムにもう少し時間がとれると、一層具体的に考えたり、他の人の質問から理解が深まったりするだろうなと思いました。

・全体の流れと、関係機関での変更事項とを分けて提示していただけると、よりわかりやすく、理解しやすかったのと思いました。あと、途中休憩ほしかったです。

・どの制度を使うか、何処につながるかも大事ですが、繋がった先で何をやるのが大事ですね就労してよかった!になりがちですが、だれと出会えるかが当事者にとっては長い人生で大事だと思いますこのような制度を推進していくうえで地域づくりができるとなお良いのだと思いました

・指定権者に事業所の認可のあり方と運営内容の監査をしっかりとやって欲しい

・今回の選択事業がぜひご本人さんのために活用されたら良いと思いました。自身も今、請求事務をしていて、とても事務に追われているので、今回の選択事業を取り入れることで、事業所さんの事務が増え、結局事業をあまり利用できないということにならないといいなあと、事業所のマンパワーと利用者さんのための支援の両立が難しいなと思いました。

・授産施設と作業所の違いは実は初めて知りました。選択できることの大切さ、情報をお渡すことの大切さなど、改めて基本に立ち返り支援していきたいと思いました。

・寸劇的な場面がとっても楽しかったです。

・自分自身の事業を振り返る機会とさせていただきます。

・ユーモアたっぷりにわかりやすくお話し頂いてありがとうございました。自分も、もっと精進していかなければならないと痛感しました。支援は情熱だけではないなと思いつつ、情熱も失われていないお話しに、本当に感銘を受けました。

・住み慣れた地域で働き暮らせるように、利用者さんに寄り添う支援を今後も啓蒙していただきたいと思います。就労、職業の選択は、大きな意思決定支援…権利擁護の一つ。

・コトのような(笑)相談者さんの相談されている様子なども、楽しく聞いて、わかりやすい講義の要素だと感じました。

・個人的には、理想や考えは多々あるのですが、組織の人間としてどのように発信していくか、法人としてどのように取り組んでいくか…また、この圏域でどのような形を作っていくか…あらためて、考えることができた時間でもありました。

また、資料の末にもありました、「最後の砦の番人 勇者カメレオン」センター自身の在り方を考えることこそ、今できることなのかもしれません。お話を聞いて、協議する時間がもてたことにも大変感謝しております。また、法人の他事業所に「はたくら」をより知っていただけたのではないかと(法人内ではなく、外部から「はたくら」の機能についてお話いただけたこと)大変ありがたかったです。あっという間の2時間でしたが、まだまだ教えて頂きたいことや、B型アセスについてもご教授いただきたいことがたくさんあります。また、このような機会があればぜひ(つくってでも…)研修会、勉強会をお願いできればと存じます。

- ・就労選択支援のキーポイントは計画相談事業だと思うが、この圏域ではその絶対数が少ない。また移行支援事業所も実働しているのは一つだけ…圏域独自の方法を検討する必要がある。
- ・福祉にとって大転換期であると思うので、今後も情報収集し、研鑽に努めたいと思います。
- ・携帯キャリアが増えてきて悩むという喩えがとてもしっくりきました。難しいものだと思っていたので、どういったものか理解できて良かったです。
- ・障害分野に関わり始めてまだ日が浅く、言葉一つ一つを覚えるのにも苦勞しているんですが、今日お話を聞いて、何となくイメージを掴むことができました。匿名の質問も、こういう形だと質問が気軽にしやすくなると感じました。
- ・研修というと始まりの自己紹介・アイスブレイク グループワークが苦手で行くのをいつもためらっているのですがとても楽しく、分かりやすい研修でした。又 皆さんの質問を見て自分の知識不足を痛感しました。もっと幅広く勉強しようと思わせてもらいました。
- ・芸人さんの話を聞いてみたいで、とても楽しいお話でした。
- ・軽妙な語り口で楽しく、最後まで興味を持って聞けました。ありがとうございました
- ・精神の方は環境によって、調子や力を発揮できるかどうか左右されやすいです。事業所の職員さんがどんな人かというマッチングも評価してくれると良いなあと思いつつ、言語化が憚れる視点で少し難しいですね。
ご本人の希望で選択されるのは素晴らしいですが、A 型の事業所が少なすぎるように思います。A 型求人が少なくて、しっかり働きたい方は一般行くしか選択肢がなくハードルが高く感じてしまいます。就労移行と B 型とを持つ事業所が多いのは何かの闇でしょうか…
- ・ぜひ、今後の動向や、各地域の取り組みなどが交流できると良いのではと思います。
- ・質疑応答は相談支援専門員を意識して、整理してもらえたのであらためて講義の内容と相談支援専門員として何を大事にしていくかを押さえてもらえたと思います。相談支援専門員として1年目で、いろいろな情報にアンテナをはって行きたいと思いますが、まだまだ個人では限界もあるので、いろいろ機関のみなさんと繋がる機会として研修に参加したいと思います。諸事情により会場に行けないこともあるので Zoom 参加もあればありがたいです。
- ・実際に退院前訪問で作業所に行くことも今度増えると思います。その際に、選択支援の場に同行してみたいと思いました。
- ・活動場所を模索する場合、まずは地域の支援機関へ相談するとありましたが、活動場所として仕事を模索した場合、デイケアを利用している場合はもっとデイケアから情報収集してほしい。
- ・灰汁の強い圏域ですが古くから熱心に、とくに権利擁護に関しては重点的な取り組みを続けている圏域です。講師の熱意が伝わりますように…

・一歩前へ自分の中で進むことができました。ありがとうございます。

・制度に対して基本的な認識が出来ていないことに気付くことが出来ました。実施されるまでの間に地域内での役割を果たせるように準備出来たらと思います。

・地域で考えるということが大事だと、改めて感じました。

・本人の意思、選択肢を増やす、地域での連携など、大切なことのキーワードを授けられた気がします。迷ったら、原点回帰しなから、進めていきたいです。